

# 縄文時代はどんな時代？

## 縄文時代とは

今から1万年以上も前のこと、氷河期ひょうがきが終わって気候が温暖おんだんとなりました。日本列島の人々は、地面を掘りくぼめて、屋根をかけた「たて穴住居」とよばれる家に住み、生活する場所を1箇所かしよに決め、むらを造って自然とともに暮らしていました。

その頃は、今と違って米作りなどを行わず、弓矢を使った狩りや、くりなどの木の実の採集さいしゅうを行い、海や川では貝や魚をとっていました。

また、ねん土で形をつくり、縄で文様なわ もんようをつけて焼きあげた土器を使い、食べ物を煮たり、保存していました。約1万年間続いたとされるその時代は、土器の名前にちなんで「縄文時代」とよばれています。

また、「土偶どくう」とよばれる、ねん土で人の形を表現したものをつくり、いろいろな儀式ぎしきを行っていたとも考えられることなどから、心の世界の豊かさを伺ううかがことができます。

写真は、青森県青森市にある三内丸山遺跡さんないまるやま いせきです。今から約5,500年前ごろに人々がくらしていた大きなむらの跡あとで、日本を代表する縄文遺跡じょうもん いせきです



(写真：青森県教育庁文化財保護課所蔵)

## 北海道にある縄文時代の遺跡

北海道には、この地図で示した以外にも約7,000か所の縄文時代の遺跡があり、1万年以上も前から、道内のいろいろなところに人々がくらしていたことがわかります。



### ① カリンバ遺跡 (恵庭市) 5 ページ

赤漆塗の櫛あかうるしぬり くしなどが見つかっています。

### ② 北黄金貝塚 (伊達市) 3 ページ

6,000年前のハマグリかいがらの貝殻などが見つかっています。

### ③ 入江・高砂貝塚 (洞爺湖町) 3 ページ

「入江式いりえしき」とよばれる土器などが見つかっています。

### ④ 鷺ノ木遺跡 (森町) 5 ページ

大きなストーンサークルなどが見つかっています。

### ⑤ 大船遺跡 (函館市) 3 ページ

深さ2mをこえるたて穴住居の跡あとなどが見つかっています。

# 北海道の遺跡・出土品から分かる縄文の暮らし



縄文時代の人々はどんな暮らしをしていたのかな

## いろいろな土器



縄文時代の中ころ、特に道南の人々は、長い筒形の土器を作っていました。これを円筒土器えんとうどきといいます。

青森県の三内丸山遺跡さんないまるやま いせきなど北東北に住んでいた人々も、同じような形の土器を作っており、互いに交流こうりゅうしていたことがわかっています。



縄文時代の終わりころになると、いろいろな形の土器を作るようになります。

注ぎ口そそぐちをつけ、全体あかうりしに赤漆ぬを塗った土器なども作られました。  
(八雲町やくも 野田生1遺跡の だおい しゅつど出土)



土器は、世界各地で作られていますが、縄文土器は世界的に見ても古くから作られていて、技術の高さや芸術性げいじゆつせい豊かなところにも大きな特色があります。

## 縄文のマイホーム

縄文時代の人々は、地面を掘って、その上に屋根をかけた、たて穴住居に住んでいました。函館市の大船遺跡からは、深さ2メートルを超えるたて穴住居の跡が見つかります。



たて穴住居は、下の写真のような家だったのではないかと考えられています。(たて穴住居を復元したものです。実際にそれぞれの遺跡を訪ねて、外側や内側をよく見てください。)



上：茅葺きで復元したたて穴住居〔大船遺跡（函館市）〕



左：土をかけて復元したたて穴住居〔入江・高砂貝塚（洞爺湖町）〕



右：貝塚とたて穴住居を復元した遺跡〔北黄金貝塚（伊達市）〕

## 不思議な土偶

土偶は、魚や木の実が多く捕れるようにお祈りするときやお守りとして使われていたと言われています。胸や（妊娠しているときのような）お腹のふくらみがあるものが多いので、お母さんを表現した縄文の女神と言われることもあります。また、いろいろな顔や体の表現があることから、縄文人の心の中にある「精霊の仮の姿」を表現したものなど、いろいろな考え方がありますが、縄文人の心の様子を知ることができる重要なものです。

下の写真は、北海道でただ一つの国宝に指定された中空土偶です。函館市南茅部地区の遺跡で発見されました。高さは41.5cm、体が空洞となっている「中空」土偶では日本一の大きさです。

お墓と見られる細長い穴に埋められていたようで、頭の髪と両腕は、埋められる前に壊れていましたが、それ以外の部分は全てそろっています。



国宝「土偶」正面



国宝「土偶」裏面

なぜ頭の髪と両腕は、お墓に埋める前に壊れていたのでしょうか（わざと壊したのでしょうか、だとすればなぜ壊したのでしょうか）。そして、土偶の表面の模様は何を表しているのでしょうか。いろいろと考えてみると面白いですね。

## マツリ(儀式)と死者を送る広場

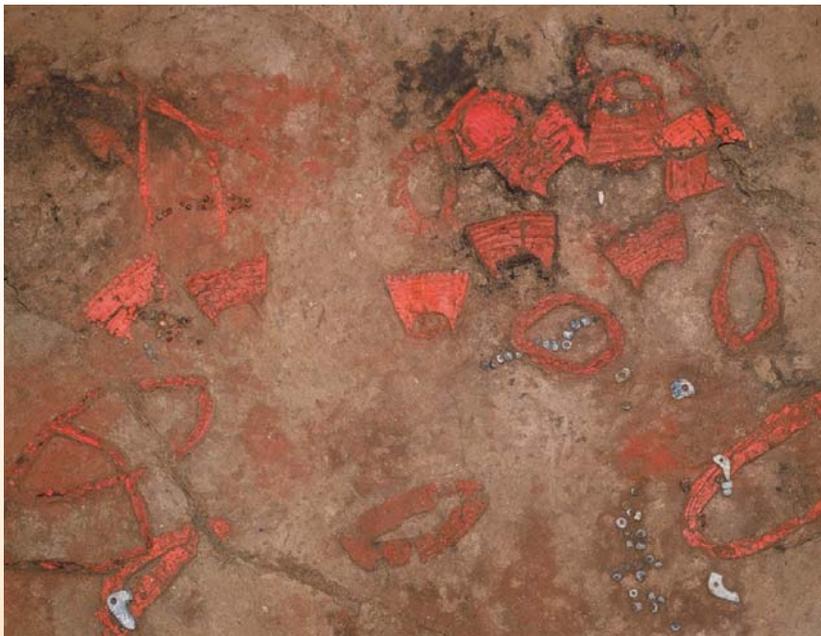
石を円形にならべたストーンサークルが見つかった遺跡もあります。お墓として使われていたほか、儀式を行う場所であったとも考えられています。(森町の鷺ノ木遺跡にある大きなストーンサークル)



## 縄文人の装飾品

遺跡からは、ヒスイの玉も見つかっています。紐をとおしてネックレスなどにしていたと考えられます。

なお、ヒスイは、現在の新潟県糸魚川で採取され、運ばれてきたものです。このころから、本州と交流があったことがわかります。



また、恵庭市のカリンバ遺跡からは、赤漆塗りの櫛が見つかっています(下の写真は、櫛を復元したものです)。



北海道の縄文時代の人々の暮らしをほんの少しだけ見てきました。みなさんも、より詳しく調べていくと、いろいろな発見があると思いますよ。

# そして「縄文時代」へ



本州とは違う、北海道独自の歴史があって、お互いに交易などを通じてつながっていたんだね

縄文時代の後、本州では、青銅器、鉄器や米作り技術を持った人々が大陸から渡来し、弥生時代（農耕社会）、そして古墳時代と続いていきますが、北海道では本格的な農耕は開始されず、狩りやくりなどの木の実の採集を行い、海や川では貝や魚をとるといっくらしが続き、その時代は「縄文時代」とよばれています。

その後も、北海道に住む人々は、サハリンなど北方に住む人々や本州の人々と交易・交流を行い、そのつながりの中で独自の歴史・文化を育んでいきました。

北海道には、開拓使以前の歴史がないというイメージもありますが、決してそうではありません。本州の歴史だけではなく、北海道独自の歴史にも目を向けてみてください。

## トピック【縄文人はどんな人々だったのか】

縄文人は右のような顔をしていたと考えられています。

- ・顔の形は四角っぽい
- ・目や鼻がはっきりとしている
- ・眉間が盛り上っている

などの特徴があります。

背の高さは、出土した人骨から、

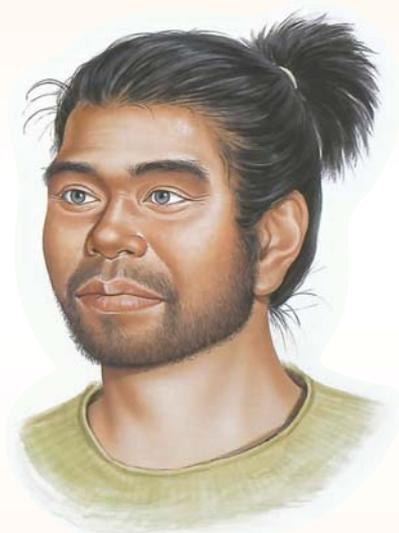
- ・男性の平均は 158 cm
- ・女性の平均は 147 cm と考えられています。

これは、今でいうと、男性は中学2年生、女性は小学6年生と同じくらいの背の高さです。

また、平均寿命は、乳幼児の死亡率が高いことから、およそ30歳とされています。

ちなみに、右の絵は、青銅器、鉄器や米作りの技術を大陸から伝えた渡来人の顔です。

縄文人とはずいぶん違う顔をしていますね。



国立歴史民俗博物館『北の島の縄文人』  
(2000年7月)より



渡来人

国立歴史民俗博物館『北の島の縄文人』(2000年7月)より

# 縄文遺跡群の世界遺産登録を実現しよう!!

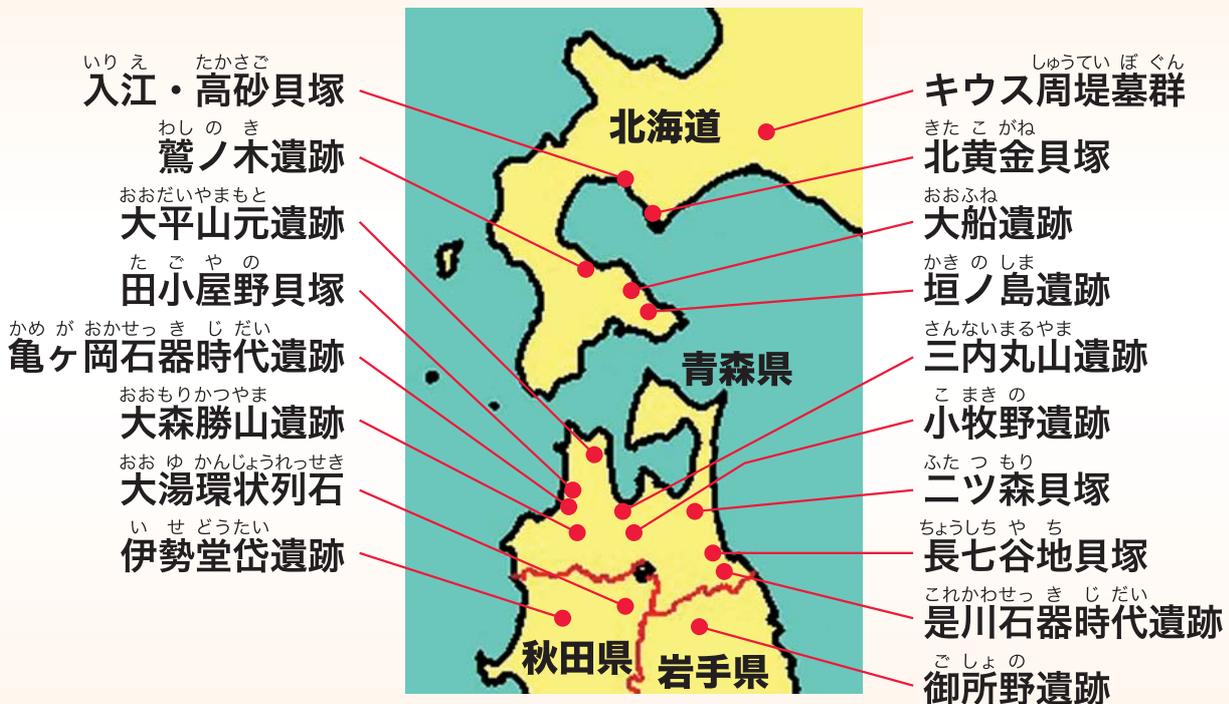
新石器時代を迎え、世界各地では、農耕とともに定住生活が始まりますが、縄文文化はそれとはことなり、暖かい気候のもと、約1万年もの間、自然を大切にし、動物や魚・貝などを捕ったり、木の実を集めたりして、豊かな自然の恵みを得ながら定住生活をしてきた文化です。

北海道では、青森県、秋田県、岩手県と一緒に、こうした縄文文化の素晴らしさを物語る縄文遺跡について、過去から現在、そして未来へと引き継いでいかなければならない大切なものと考え、北海道内の6つの遺跡を含めた18の代表的な遺跡を「世界遺産」に登録することをめざしています。

現在、「北海道・北東北の縄文遺跡群」は世界遺産の候補として暫定一覧表（候補リスト）に記載されています。

皆さんも世界遺産登録の実現を応援してくださいね。

## 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産登録をめざす18遺跡



(北海道外の遺跡の中には、こんなところがあります)



青森県小牧野遺跡



秋田県大湯環状列石



岩手県御所野遺跡

【2つの遺跡には、大きなストーンサークルがあります】 【縄文時代の村のあとです】